

組織現勢 (8月1日現在)

組合員数 20,089人
 出資口数 127,956口
 6・7月の新規加入 29人
 6・7月の増資口数 782口

No. 404 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
 本部事務局 大田区大森東4-6-15-101
 TEL (3762) 0266
 振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
 口座 (普) 0469459
 発行 行 「城南の保健」編集委員会
 年8回発行・定価1部 30円

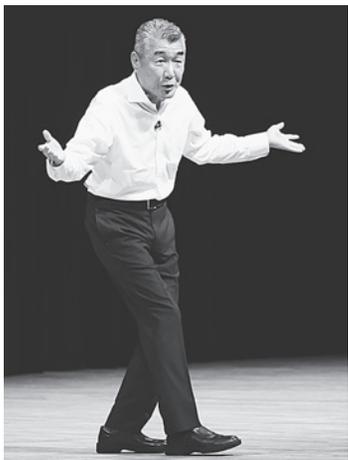
お知らせ

城南保健生協は今年、創立40周年です。
 11月18日(土) アプリコ展示室で「40周年記念祝賀会」を開催します。詳細は次号で!!

祝！憲法施行70年企画 「憲法こそたからもの」 もっと知ろう憲法のこと

講演 弁護士 伊藤 真さん
 スペシャルライブ「憲法くん」がやってくる 松元ヒロさん
 8月6日(日) 大田区民ホールアプリコ

1287人



松元ヒロさん

伊藤真さんのお話は、日本国憲法制定の目的、立憲主義とは、個人の尊重、平和主義、自民党改憲草案の目的など、とてもわかりやすくお話ししてくださいました。

私たちのなすべきことはこの国をどんな国にしたいのか、「主体的に行動する」と「声をあげる」と「などの話が印象に残りました。

感想では「憲法をこんなにもわかりやすくお話ししていただき、大変ありがたかった。このお話を中学、高校の授業で行ってほしい。しかし、それは現政権が許さないから私たちは社会

松元ヒロさんのライブ「憲法くん」は、とにかく大爆笑なのですが、笑いの中に憲法の真髓を捉えたなかみで、終了後行われた「憲法くん」(絵本)販売サイン会では、あっという間に完売となり、



伊藤 真さん

今回の企画は、「城南保健生協」「東京南部法律事務所」「東京南部生協」の3団体共催企画で行われました。
 当日は1287人の方に参加いただき、本当にありがとうございました。

今回の企画が安保関連法(戦争法)の廃止と立憲主義を取り戻し、憲法9条を守る共同の輪を広げることにつながったと確信しています。引き続き、共同の輪を広げていきましょう。(実行委員 横山)

購入できなかった方には申し訳ありませんでした。
 感想では「松元ヒロさん最高！笑いが止まらなかった。絵本を通して、子ども達にも憲法の大切さを伝えていきたい。決して再び戦争する国にはさせない決意となった」なども寄せられました。



健康づくり まちづくりをすすめます

城南保健生活協同組合第42回通常総代会が、大田区民ホール・アプリコ展示室で行われました。お忙しい中お越しいただいた来賓の皆さまに心よりお礼申し上げます。

当日は総代の皆さんに熱心に

地域の要求に応える「誰も が安心して住み続けられる まちづくり」をすすめます 第42回通常総代会 6月24日(土)

今年の大田・品川健康まつりは、品川区の戸越公園で開催。当日は、健康チェックコーナー、舞台でのパフォーマンス、東京南部生協の産直コーナーもありました。出演者・模擬店の出店など募集中ですので、実行委員会までお問い合わせください。

豪華な景品が当たる福引付き賛助券は1枚200円です。5枚連番で買えば、何か必ず当たります。賛助券のご購入にぜひ協力ください。

第33回 大田・品川 健康まつり
 安全・安心の医・福・食・住と平和について一緒に考えてみませんか？

10月29日(日) 10時30分～15時
 戸越公園

大田・品川健康まつり実行委員会
 大田区大森東4-6-15-101 城南保健生活協同組合内
 TEL 3762-0266 FAX 3762-0239

10月29日(日) 戸越公園で開催

今総代会を大きな力とし、地域における幅広い対話をすすめる誰もが安心して住み続けられるまちづくり運動を広げていきましょう。

2面に発言要旨

討論していただき、2017年度活動方針(案)、予算(案)など8号にもおおよぶ議案を賛成多数で採択することができました。

また「安保関連法(戦争法)廃止、共謀罪法廃止、国民のいのち・暮らしを守る国民的なたたかいを」第42回通常総代会アピールも行い、満場一致で採択されました。

「半年のうちに世相は変わった。醜の御桶といでたつ我は。大君のへにこそ死なめかえりみはせじ。若者達は花と散ったが、同じ彼等が生き残って闇屋となる。ももとの命ねがはじいつの日か御桶とゆかん君とちぎりて。けなげな心情で男を送った女達も半年の月日のうちに夫君の位牌にぬかすことも事務的になるばかりであらうし、やがて新たな面影を胸に宿すのも遠い日のことではない。人間が変ったのではない。人間は元来そういうものであり、変わったのは世相の上皮だけのことだ。「こんな衝撃的な書き出しではじまるのは、戦後、太宰治、織田作之助とともに無頼派と呼ばれた、坂口安吾の『墮落論』である。原稿用紙50枚にも満たない論文であるけれど、戦前の軍国日本について、文化についての語り口はすさまじいほどすごい。軍国日本のインチキを暴き出し、その怒りは止まるところがない。無頼の人であり、大酒飲みではあったけれど、心根の優しさは作品の随所にうかがうことができる。空襲で家を焼かれた品よさうな父と娘が、また余燼の残る緑の草の上に座っている光景を、作者は戦争と関係のない平和なピクニックに重ねて見たりしている。▼特攻隊の勇士はただ幻影であるに過ぎず、人間の歴史は闇屋となるところからはじまる。天皇も幻影であり、人間であるところから真実の天皇の歴史ははじまる。いま一刻と戦前が近づいてきている。墮落から真の歴史がひらけることを坂口安吾は命がけて語ったのだ。

腹八分